

西条・加茂川園児死亡

子どもの安全

いかに守るか

東京で遺族ら学会開催

2012年7月、西条市中奥の増水した加茂川で幼稚園のお泊まり保育中に流され亡くなった吉川慎之介ちゃん(当時5)の遺族らが19日、東京都内で保育

・教育現場の事件事故防止策を研究する「子ども安全学会」を開き、保育士や教員ら約60人が危機管理について理解を深めた。

遺族らは同様の悲劇を繰り返さないため、子どもの安全に関わる事故の防止に向けた団体を13年に設立。広く情報共有を図ろうと、勉強会を発展させる形で昨年から学会を開いている。

今回が2回目の開催で、愛媛大法文学部の小佐井良太准教授(法社会学)が、自ら作成に携わった慎之介ちゃんの事故「調査報告書」を踏まえ講演。事故が起き

中国海警局3隻が尖閣領海侵入

19日午前10時すぎ、沖縄県・尖閣諸島周辺の領海に、中国海警局の船3隻が相次いで侵入し、約2時間後に領海外に出た。尖閣周辺の領海に中国当局の船が侵入したのは10日以来で、今年に入ってから26日目。尖閣周辺では中国当局の船が25日連続で確認されている。

場合に、保育・教育現場は「対立を前提とするのではなく、遺族との相互理解に基づく対応」を求めた。

ほかに弁護士ら6人が登壇し、保育施設や、学校のプールでの飛び込みによる死亡事故事例を紹介。ヒヤリハット情報の共有徹底、子どもが主体となって身近な危険を学ぶ傷害予防活動などを提案した。慎之介ちゃんの父豊さん(45)は「参加者は学んだ内容を現場での事故防止策に役立ててほしい」と期待した。

(松本尚也)